

# 論述式試験答案・レポート作成

- 1 評価のポイント
- 2 事前に準備する
- 3 自己表現の訓練

# 論述式答案・レポートの評価法(構成法)

- 1 問題を適切に把握しているか(最初に、問いを簡単に整理する)
- 2 問いに答えたか(自分の結論を書く)
  - ここまでで半分のスペースを使う
- 3 結論の理由付けがあるか
  - 1) 理屈を述べる(なぜ、そうなるか)
  - 2) 事例を挙げる(自分の主張を論証、補強する)

# 何を準備するか

- 1 自分のアイデアを箇条書きにする
- 2 問題 結論 理由・事例の順に並べる
- 3 理屈の部分を考えておく(先に同じような問題を考えた人がいないか:先行研究のフォロー ネット、図書館でキーワード検索)
- 4 事例の収集(ネット、新聞・雑誌記事の検索、自分の経験、人の経験を訊ねる)

# 答案・レポート作りにはルールがある

- 1 人のアイディアや資料を引用する時は、明記する。
  - 1) 図書：著者、発行年、書名、出版社。(欧文のものは現著者・訳者・書名、出版社を付加)
  - 2) HP：サイト名、URLを明記。
- 2 あたかも自分が考え、調べたかのように他人のものを無断で使用するのは剽窃になる。

# 答案・レポートは自己表現

- 1 自分の言葉で書くことが大切。思考は言葉による。自分の言葉によらないものは、自己の思考とは言えない。
- 2 自力で考えたこと、集めた資料で、考えをまとめてこそ、自己表現能力が身に付く。その機会として、試験・レポートを捉える。終わって、何が身に付いたか、それが大切。

# 文献の記載方法

- 参照文献は、著者の姓のアルファベット順で列挙する。また、必要事項については以下の順序で表示するものとする。
- 著者名：外国人の場合も、筆頭著者は姓を最初にする
- 西暦発行年：同一著者が同一年に発表した複数の文献は、発行年の後にa,b,cを付けて区別する
- タイトル：日本語の場合、単行本は『』、論文は「」で括る
- 欧文の場合、単行本はイタリック体で表示するか下線をひき、論文は“”で括る
- 掲載雑誌名：和雑誌の場合『』で括り、洋雑誌はイタリック体で表示するか、下線をひく
- 出版社名(単行本の場合)
- 掲載ページ(論文の場合)

- 【例】
- Blau, Peter M. and Otis D. Duncan, [1967]1978, The American Occupational Structure, The Free Press.
- Brinton, Mary C., 1989, "Gender Stratification in Contemporary Urban Japan," American Sociological Review 54(4): 549-64.
- Coleman, James S., 1994, "A Rational Choice Perspective on Economic Sociology," in Smelser, Neil J., and Richard Swedberg eds., The Handbook of Economic Sociology, Princeton University Press: 166-80.
- 富永健一, 1979, 「第1章 社会階層と社会移動へのアプローチ」, 富永健一編, 『日本の階層構造』, 東京大学出版会: 3-29.
- 金子勇編, 2003, 『高田保馬リカバリー』, ミネルヴァ書房.